

展示・イベント・事業等レポート

(2018 年 4 月 - 12 月)

展覧会

ビッグコミック 50 周年展 ～半世紀のビッグな足跡～
PEACE MAKER 鐵 原画展 ～京都幕末新撰組異聞～
ギガタウン・イン・テラタウン こうの史代の「漫符図譜」

イベント

バロン吉元×寺田克也：ライブドローイング
メカデミア国際学術会議「Manga Nexus: Movement, Stillness, Media (マンガ・ネクサス：運動・静止・メディア)」
日本石塚真一×さそうあきらトークセッション「ページの上のシーツ・オブ・サウンド」
日本マンガ学会第 18 回大会シンポジウム「デジタル時代のマンガ」
齋藤なずな×呉智英対談
田中圭一×安齋レオ×吉村和真トークショー「限界漫画論 あなたの知らない「マンガ」がここにある?!」
小田部羊一氏トークショー～ハイジからチエ、そしてマリオへ～
波津彬子トークショー「波津彬子、イギリスに行く」
波津彬子×佐川俊彦×竹宮恵子トークショー「『JUNE』からやおいまで」
トニー・ヴァレント×助野嘉昭トークショー「少年、マンガに出会う」

ワークショップ

マンガ・ワークショップの実施

その他事業

文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業
「村上知彦コレクションに基づくサブカルチャー史アーカイブモデルの構築」
江戸戯画・明治戯画・戯画本コレクションの活用
原画ダッシュ 2018 年度事業
文化庁メディア芸術連携推進事業連携共同事業
「マンガ原画に関するアーカイブ（収集・整理・保存・利活用）および拠点形成の推進」
京都国際マンガミュージアム / IMRC 所蔵資料の提供事例集
IMRC 研究員業績等 (2018 年 1 月 - 12 月)

展覧会

ビッグコミック 50 周年展 ～ 半世紀のビッグな足跡 ～

実施概要

2018 年に創刊 50 周年を迎えたマンガ雑誌「ビッグコミック」（小学館）。本展では、マンガが若者たちの文化として大きく広がっていった時代に産声をあげ、「大人のためのコミック誌」という領域を切り拓いたそのあゆみを振り返り、戦後マンガ史のなかで果たしたその役割に目を向けることを企図した。

第 1 部では創刊号および 10 年ごとの期間で代表的作品を原画・複製原画とともに 5 作品前後ビッグアップし、「ビッグコミック」という場のなかで結実した戦後マンガ作品の幅広さ・奥深さをあとづけた。第 2 部では、テーマの深化と広がりという戦後マンガのあゆみそのものを反映している「ビッグコミック」の多様性を紹介するため、「名作アラカルト」として 12 点の作品に焦点を当てた。第 3 部では「現在進行形のビッグコミック」として、いまの「ビッグ」誌面を飾る作品を原画と共に紹介した。また、ギャラリー 4 を別会場として、京都国際マンガミュージアム所蔵の「ビッグコミック」複本資料 100 冊以上を自由に手にとって読むことができる読書スペースを設けた。

本展では、さいとう・たかを「ゴルゴ 13」のような有名作品のイメージのみが先行しがちな「ビッグコミック」という雑誌について、その誌面を飾った作品世界の多様さを紹介することに重点を置いた。また、雑誌そのものや単行本について豊富な資料を持つ京都国際マンガミュージアムでの開催であることを活かし、そうしたメディア資料そのものの存在感やアクセスのしやすさを前面に出した会場構成とした。なお、本展は京都国際マンガミュージアム以降、川崎市市民ミュージアムなど数館を巡回予定である。

（雑賀忠宏）



基本情報

期間：2018年6月9日（土）- 2018年9月2日（日）

会場：京都国際マンガミュージアム 2階

ギャラリー 1・2・3・4

主催：京都精華大学国際マンガ研究センター / 京都国際マンガミュージアム

協力：小学館ビッグコミック編集部

テキスト執筆：雑賀忠宏、伊藤遊、ユー・スギョン、倉持佳代子、竹内美帆、鈴木翠、吉村和真（コラム執筆）、呉智英（コラム執筆）

ポスター・チラシデザイン：株式会社 フルーツドロップス

英訳：キャシー・セル

設営：株式会社 七彩

担当研究員：雑賀忠宏

《本展で出展・紹介された作品》

第1部「ビッグコミック 50年の歩み」

創刊号

手塚治虫「地球を呑む」、石ノ森章太郎「佐武と市捕物控」、さいとう・たかを「捜し屋はげ鷹登場!!」、水木しげる「妖花アラウネ」、白土三平「野犬」

1968～1977

篠原とおる「さそり」、藤子・F・不二雄「ミノタウロスの皿」、ちばてつや「のたり松太郎」、藤子不二雄④「黒いせえるすまん」、青柳裕介「土佐の一本釣り」

1978～1987

林律雄（作）・高井研一郎（画）「総務部総務課山口六平太」、石ノ森章太郎「HOTEL」、一ノ関圭「茶箱広重」、白土三平「カムイ外伝」

1988～1997

山本おさむ「どんぐりの家」、酒見賢一（原作）・久保田千太郎（脚本）・森秀樹（作画）「墨攻」、柴門ふみ「家族の食卓」、近藤ようこ「ルームメイツ」、谷口ジロー「犬を飼う」

1998～2007

なかいま強「黄金のラフ」、大石賢一（原案協力）・鍋島雅治・九和かずと（原作）・はしもとみつお（作画）「築地魚河岸三代目」、細野不二彦「ダブル・フェイス」、小林よしのり「遅咲きじいじ」、いがらしみきお「かむろば村へ」

2008～2018

石塚真一「BLUE GIANT」、いわしげ孝「上京花日」、星野之宣「レインマン」、小森陽一（原作）・藤堂裕（作画）「S エス - 最後の警官 -」、水木しげる「ゲゲゲの家計簿」川田弥一郎（原作）・高瀬理恵（作画）・山田順子（時代考証）「江戸の検屍官」

第2部「ビッグな名作アラカルト」

手塚治虫「奇子」、上村一夫「凍鶴」、石川サブロウ（画）・江沢光（原作）・久保田千太郎（脚色）「母の囁野」、法月理栄「利平さんとこのおばあちゃん」、古谷三敏「寄席芸人伝」、西ゆうじ（原作）・ひきの真二（作画）「華中華 ハナ・チャイナ」、楳図かずお「イアラ」、園村昌弘（原作）・中村真理子（作画）「天智と天武」、里中満智子「パンドラ」、齋藤なずな「迷路のない町」、岡崎二郎「宇宙家族ノベヤマ」、松本零士「蟹気楼綺譚」

第3部「現在進行形のビッグコミック」

さいとう・たかを「ゴルゴ13」、石塚真一「BLUE GIANT SPREME」、かわぐちかいじ・恵谷治（原案協力）「空母いぶき」、さだやす圭「フォーシーム」、吉田聡「そのたくんが愛のなか。」、魚戸おさむ「はっぴーえんど」、なかいま強「黄金のラフII～草太の恋～」、香川雅彦（原作）・若狭星（作画）「ましろ日」、夏原武（原案）・水野光博（脚本）・大谷アキラ（作画）「正直不動産」、高橋のぼる「劉邦」、細野不二彦「パディドッグ」、間瀬元朗「粘菌人間ヒトモジ」、黒鉄ヒロシ「赤兵衛」、山科けいすけ「C級さらりまん講座」、ちばてつや「ひねもすのたり日記」、北見けんいち「昭和トラベラー」、細野不二彦「ギャラリーフェイク」、業田良家「機械仕掛けの愛」、諸星大二郎「諸星大二郎劇場」、西村ツチカ「北極百貨店のコンシェルジェさん」、北原雅紀（原作）・あおきてつお（作画）「ショパンの事件譚」、小日向まるこ「アルティストは花を踏まない」

展覧会

PEACE MAKER 鐵 原画展 ～京都幕末新撰組異聞～

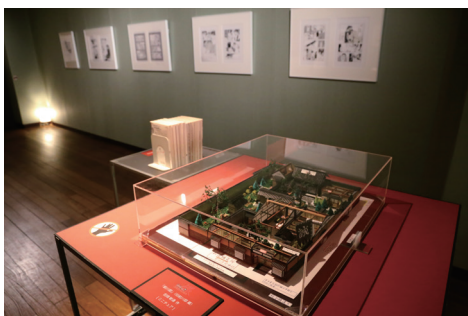
実施概要

2017 年に大政奉還から 150 年を迎え、明治維新に世間の注目が集まる現在、この激動の時代に翻弄されながらも怒涛な運命を辿る新撰組の生き様や、今もまだ史実では明らかになっていない歴史の闇を独自の解釈で描いたマンガ家・黒乃奈々絵氏の作品「PEACE MAKER 鐵」に注目が集まっている。劇場アニメ化される 2018 年秋に合わせ、展覧会を開催することにした。

展示の見所は、幕末の事件や謎など諸説の紹介を行うことで、黒乃氏の描く物語がいかにか劇的かを理解できる事。さらに氏の描く剣戟のストロークには、達人の剣先の如く迷いがなく、美しい。しかし場面毎に魅せる勢いの違いにも注目できるよう、賑やかな場面で見せるコミカルな表現や身の毛のよだつ恐ろしい表現、そして仲間の死の局面など、様々なシーンを選択して展示した。没入して作品を見ていても面白いが、客観的に作品を描いている黒乃氏本人を想像すると、氏の登場人物に対しての感情までも伝わって来る。

幕末の歴史解説などとして幕末維新ミュージアム・靈山歴史館の監修の下テキストパネルが作成され、現在に残る実在の屯所・旧前川邸の取材により、一般には公表されていない内部の写真や、今も毎年行われている隊士・山南敬助の霊を弔う山南忌について紹介できた。これら取材に黒乃氏にも同席していただき、屯所に使われた壬生寺や、坂本龍馬が暗殺された近江屋跡、伏見の古戦場跡を見学した。氏には各所の感想や想いを文字にさせていただき、地図にまとめ、これも展示した。

(應矢泰紀)



© 黒乃奈々絵 / マッグガーデン / PEACE MAKER 鐵 製作委員会

基本情報

期間：2018年9月15日（土）- 11月6日（木）

会場：京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3

主催：京都国際マンガミュージアム / 京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会 / 株式会社マッグガーデン

協力：PEACE MAKER 鐵 製作委員会

担当研究員：應矢泰紀

展示構成

京都国際マンガ・アニメフェアの一環ということもあり、京都に実際に起こった様々な幕末の事件のシーンを中心にマンガ原画約100点を展示した。構成は以下の7パートである。

- ① PEACE MAKER とは？
- ② 土方との出会い
- ③ 池田屋事件
- ④ 山南敬助の死
- ⑤ 竜馬暗殺
- ⑥ 伊東の罠
- ⑦ 鳥羽伏見の戦い

原画の物語を補間できるように各区間にマンガ本を置いた読書コーナーを設けた。

旧前川邸のジオラマ展示も行い、特に山南敬助の明里との別れの窓や、切腹の場所などを立体的に分かるように紹介した。ギャラリーの壁面には様々な落ち着いた色の和紙が貼られ、入り口や大きな転換期などには襖を開けて進めるようにした。所々に「和」を感じさせる照明が床に設置されており、和風建築を想像できるように設計した。

また、その他にも劇場アニメの資料展示や、コマーシャル上映を行った。

ギャラリー間にある休憩スペースには、黒乃奈々絵氏のコメント付き京都・新撰組ゆかりの地図も展示した。

関連資料

「PEACE MAKER 鐵」とは

幕末の動乱に実在した新撰組隊士・市村鉄之助の死闘や、怒涛の運命をたどる土方歳三らのエピソードを、マンガ家・黒乃奈々絵先生が独自目線で描いた作品。1999年「新撰組異聞 PEACE MAKER」として連載がスタートし、現在『月刊 コミック ガーデン』とWEBコミックサイト「MAGCOMI」（株式会社マッグガーデンのマンガ配信サイト）で連載中。2003年にTVアニメ化されて以降、ドラマや舞台化も果たしている作品。

黒乃奈々絵（くろのななえ）

栃木県生まれ。マンガ家。1999年「新撰組異聞 PEACE MAKER」を連載開始。その後タイトルを改め「PEACE MAKER 鐵」として現在も連載中。他にも「Vassalord.」「殲鬼戦記ももたま」などの作品を手がけている。

「京都国際マンガ・アニメフェア」について

関西圏企業と首都圏企業とのビジネスマッチングの場の創出、関西で優秀な若手クリエイターが育つための市場づくり、マンガアニメファン及び外国人も含めた観光客の新たな層の掘り起こしなど、関西圏のコンテンツ市場の促進を図ることを目的として毎年9月に開催される西日本最大規模のマンガ・アニメイベント。2018年で7回目を迎えた。

展覧会

ギガタウン・イン・テラタウン

この史代の「漫符図譜」



実施概要

マンガ独特の表現記号＝「漫符」がテーマのこの史代によるマンガ作品「ギガタウン 漫符図譜」を紹介するオリジナル展として企画された。展覧会は2部構成で、第1部では、同作でも紹介されている10の漫符を取り上げ、それらの歴史や古今東西の使用例を紹介するなど詳しく解説した。第2部では、ネームや下描きを含む「ギガタウン」の原画100点以上を一堂に集めた。

第1部では、「マンガ表現論」などにおける最新の研究知見を紹介すると同時に、漫符と一緒に写真撮影ができる仕掛けを用意した。また、マンガミュージアムの開架のマンガ本から指定の漫符を探してきてもらうワークショップや、新しい漫符を発明してもらうワークショップのコーナーを設置するなど、特に日本に住んでいる者にとっては当たり前過ぎて意識されることがない漫符を体感できる展示を目指した。

(伊藤遊)

基本情報

期間：2018年11月22日（木）- 2019年4月2日（火）

会場：京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3

主催：京都精華大学国際マンガ研究センター / 京都国際マンガミュージアム

協力：朝日新聞出版

テキスト執筆：吉村和真 / 伊藤遊 / ユー・スギョン / 日高利泰 / 雑賀忠宏

空間構成 / アートディレクション：伊藤遊

グラフィックデザイン：西村絵美（フルーツドロップス）

英訳：ユー・スギョン

設営：株式会社 七彩

担当研究員：吉村和真 / 伊藤遊 / ユー・スギョン

参考文献



の解説

- ・四方田大彦『漫画原論』筑摩書房、1994年
- ・竹熊健太郎「ひと目でわかる「形喩」図鑑！ 漫符と効果の具体的な使用例検証 120」『別冊宝島 EX マンガの読み方』宝島社、1995年
- ・宮本大人「マンガと乗り物 新宝島とそれ以前」霜月たかな編『誕生！手塚治虫 マンガの神様を育てたバックグラウンド』朝日ソノラマ、1998年



の解説

- ・木村晶彦「戦前戦中期における日本アニメーションキャラクターの感情表現の変遷 製作手法の観点から見た運動表象や構図及び擬音の量的分析を通して」『評論・社会科学』第96号、同志社大学、2011年
- ・宮本大人「マンガと乗り物 「新宝島」とそれ以前」霜月たかな・編著『誕生！手塚治虫 マンガの神様を育てたバックグラウンド』朝日ソノラマ、1998年
- ・夏目房之介『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』NHK出版、1997年
- ・正木香子『本を読む人のための書体入門』星海社、2013年
- ・諸岡知徳「コマのなかのオノマトペ：マンガ表現論（2）」『甲南女子大学研究紀要 文学・文化編』第47号、甲南女子大学、2011年



の解説

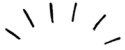
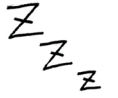
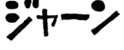
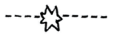
- ・足立加勇「五十嵐かおるにおける瞳の巨大化の過程 少女マンガの大きな目を考える一例として」『マンガ研究』VOL.22、日本マンガ学会、2016年
- ・伊藤剛「多段階フレーム 目のひかりからコマへ」『マンガ視覚文化論 見る、聞く、語る』水声社、2017年
- ・藤本由香里「少女マンガの源流としての高橋真琴」『マンガ研究』VOL.11、日本マンガ学会、2007年
- ・吉村和真『『はだしのゲン』のインパクト マンガの残酷描写をめぐる表現史の一考察』吉村和真／福岡良明・編著『『はだしのゲン』がいた風景』梓出版、2006年

〔その他〕

- ・『別冊宝島 EX マンガの読み方』宝島社、1995年
- ・『ユリイカ』2016年11月号（特集：この史代 『夕凧の街 桜の国』『この世界の片隅に』『ぼおるべん古事記』から『日の鳥』へ）、青土社、2016年



写真：浅野豪

本展でクローズアップされた漫符 および それらの漫符の使用例として紹介された作品						
漫符	作者名	作品名	出版社名（レーベル名）	巻数	出版年	ページ数
	旭太郎・作、 大城のぼる・画	火星探検	小学館クリエイティブ ※中村書店版の復刻版		2005 年 ※ 1940 年	p.76
	わたなべまさこ	小さなレディ	河出書房新社 ※『わたなべまさこ名作 コレクション 花と羊羹と ファッションと』所収		2018 年 ※ 1964 年	p.324
	坂本牙城	タンク・タンク ロー	小学館クリエイティブ ※講談社版の復刻版		2005 年 ※ 1935 年	pp.100-101
	酒井七馬・原作・原案、 手塚治虫・作画	新宝島	小学館クリエイティブ ※育英社版の復刻版		2009 年 ※ 1947 年	pp.2-3
	島田啓三	冒険ダン吉	講談社		1970 年 ※ 1933 年 -1939 年 連載	pp.102-103
	白土三平	カムイ伝	小学館 (ゴールデン・コミックス)	第 1 巻	1967 年	p.248
	安本亮一	三振したところ	大空社 ※『現代漫画大観 子供 漫画』復刻版所収		2010 年 ※ 1927 年	カラー口絵 p.9
	赤塚不二夫	おそ松くん	曙出版 (AkeBono-Comics)	第 1 巻	1976 年	p.18
	つのだじろう	うしろの百太郎	講談社 (KC スペシャル)	第 1 巻	1983 年 ※ 1973 年 連載開始	pp.196-197
	さくらももこ	ちびまる子ちゃん	集英社 (りぼんマスコット コミックス)	第 2 巻	1988 年	pp.12-13
	チャールス・M・シュ ルツ	グーグーグース ヌービー	ソル・コミック社		1958 年	
	ポール・ディニ、 ブルース・ディム	バットマン：マッ ドラブ／ハーレ イ&アイビー	小学館集英社プロダク ション		2011 年 ※ 1994 年 連載開始	p.42
	鳥山明	DRAGON BALL	集英社 (ジャンプ・コミックス)	第 21 巻	1990 年	p.123
	オーサ・イエークスト ロム	北欧女子オーサ が見つけた日本 の不思議	KADOKAWA (メディアファクトリーのコ ミックエッセイ)	第 2 巻	2015 年	p.99
	水島新司	ドカベン	秋田書店 (少年チャンピオ ン・コミックス)	第 8 巻	1974 年	p.84
	尾田栄一郎	ONE PIECE	集英社 (ジャンプ・コミックス)	第 1 巻	1997 年	p.56
	中沢啓治	はだしのゲン	汐文社	第 2 巻	1975 年	pp.16-17
	美内すずえ	ガラスの仮面	白泉社 (花とゆめ COMICS)	第 27 巻	1983 年	p.8 ほか多数
	麻生豊	赤ちゃん閣下	国書刊行会※清水勲・編 『漫画雑誌博物館昭和時代篇 読売サンデー漫画』所収		1987 年 ※ 1925 年	p.106
	ウィンザー・マッケイ	リトル・ニモの 大冒険	パイインターナショナル		2014 年 ※ 1905 年 連載開始	p.152